

名前：

インターネットの発達とともに、新聞や雑誌はいらないということに対して、私は賛成できない。理由はいくつあるので、どうぞご覧ください。

第一、新聞や雑誌の資料は紙に印刷されていて、実感があるわけだ。私は小学校の時から、毎日朝起きると、児童向けの新聞をすぐ読み始めた。一枚ずつ、各自の趣があつて、いつも楽しみにしていた。好きな文や絵があったら、まもなく切つて、本に集めた。そして、メモもその時の心持も記録されている。もし、インターネットでニュースを見たら、新聞という独特な味や触り心持が消えて、真実感を感ぜられないのだ。また、朝食を食べながら、新聞を読んだほうが楽で、コンピューターと一緒になら、ストレスがまじやういと思つて、近づいて見ることも変に見えるではないだろうか。

第二、新聞や雑誌の労働者たちが人々や物事も訪問、その内容を自ら書き出す。人との

交流だけでなく、自分の反省や経験含まれる。それに比べると、スピードを重視するインターネットなら、速く報道しないといけないという念頭が入つて、品質の良し悪しが散々かもしれない。昔にひまかえ、今の文に間違つた文字が数少なくないある。読み直ることが粗末に取り扱うだろう。

第三は、コンピューターは輻射が紙より強い、長時間スクリーンをじっとにらむと、眼に障るだけでなく、姿勢も知らずうちに崩すようになる。一旦、不良な姿勢に慣れたら、腰や脊椎などの体の調子がだんだん悪くなる。体力も衰弱しがちだ。コンピューター症候群

とも言える。

インターネットが普及しつつあるのに、伝統的なメディアはまだ価値あるものだと思つている。簡単に捨てるわけにはいかない。新聞や雑誌を持って、読んで、作者が伝えたいものを感じることはコンピューターよりもしみじみだ。

1800字